

実証会計

河内山 拓磨 教授

t.kochiyama@waseda.jp

1) 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

専門分野は財務会計となりますが、企業財務(コーポレートファイナンス)やコーポレートガバナンスなど幅広いトピックについて実証アプローチのもと日々研究をしています。実証アプローチといっても、大量データを統計解析するアーカイバル研究だけでなく、アンケートやインタビューなどの研究手法も含まれており、広い意味での実証研究を志しています。

研究内容は多岐にわたりますが、たとえば、債務契約における会計情報の利活用、財務報告の質が果たす役割、経営者能力の測定と応用、配当政策の効率性分析、取締役会や資本市場のモニタリング機能、経営者予想などの情報開示などについて研究を進めてきました。

現在は、銀行をはじめとする融資機関における情報の収集・利活用の実態解析、メインバンク・システムの振り返り、証券アナリストの経済的役割などについて研究を進めているほか、他の情報に対する財務会計の競争優位性・独自の役割について探索的な研究を試みたいと考えています。

2) 指導方針

河内山研究室は、「Aim High」の精神のもと「楽しみながら優れた研究活動をし続けていく人材を育てること」を基本方針としています。博士後期課程である以上、学位取得を目指す必要がありますが、研究者の人生は長く、学位取得はそのスタートにすぎません。一度就職してしまうと新しく何かを勉強・習得することが難しくなってしまうほか、研究そのものを辞めてしまう人もいないわけではありません。また、最近では国内でも主要大学を中心に英文業績が求められ始めており、研究者として認められるためには海外有力誌に自身の論文を掲載することが必要になり始めています。

こうした状況を踏まえて、河内山研究室では、学位取得の「少し先」にも目を向け、①世界的に通用する研究ができるようになること、および、②こうした研究を楽しんで継続できるマインドセットを養うこと、の2つを重視しながら、研究指導をしていきます。博士後期課程に進学予定の方はすでに研究テーマを持っているものと思いますが、どのような論文を(what)、いつ(when)、どのように(how)、どのような水準の学術誌(where)で何本(how many)公表するかについては明確に定まっていないように思います。こうした点について議論しながら、論文の質を高め、学術誌掲載という成果にちゃんと結びつくようお手伝いすることを心がけています。

なお、短期的な論文公表や生産性のみを追い求めるわけではありません。研究者人生は長いため、長期的な視点に立ったうえでの素養や洞察、視野の広さも重要となります。パブリケーション競争でちゃんと勝負しながら、「意味のある」「面白い」研究ができるよう日々活動していきたいと考えています。

3) 学生に対する要望・その他

博士後期課程に進学する以上は、研究者(大学教員)になることを前提に指導をしていきます。そのため、この志あるいはキャリアプランを持っていることが必要となります。また、3年間で学位取得を目指す場合、博

士1年次から積極的に論文執筆・学会報告などを行う必要があるため、専門知識や分析手法などについて基本的な理解をある程度持っていることが望まれます。

くわえて、日々の研究活動を論文掲載という最終成果に結びつけるためには、相応の時間と根気と努力が必要になります。こうした粘り強さや踏ん張れる力を持った方にご参加いただくのが望ましいものと考えています。

河内山が指導することが双方にとって本当に望ましいかを事前に判断させていただきたいため、指導を希望される方は下記リンクを確認のうえ受験前にメールにて連絡ください。研究が好きで楽しみながら頑張れる人を歓迎します。

個人HP: <https://sites.google.com/view/takuma-kochiyama/home?authuser=0>

大学HP: https://w-rdb.waseda.jp/html/100004396_ja.html